2007－IV－14

ラテンアメリカの養鶏インテグレーション

星野　妙子　編

2008 年 3 月

独立行政法人　日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書
地域研究センター　2007－IV－14
ラテンアメリカの畜産インテグレーション研究会

はじめに

近年のラテンアメリカ経済の重要な変化に、農牧畜業の「工業化」がある。農牧畜産品があたかも「工業製品」のように生産されるという現象である。「工業化」の特徴は、例えば土地の不要化（生鮮野菜、養豚、養鶏の事例）、最新技術による種・育成過程・育成環境の改変・管理、大規模機械化などの点に見いだすことができる。「工業化」と表裏一体となって進んでいるのが農牧畜産品の生産・加工・流通に関わる様々な主体（農牧畜産品生産者、投入財生産者、加工業者、流通業者など）の取引関係の変化である。スポット取引から長期契約、あるいは内部化へと、取引関係がより長期化、固定化している。すなわちインテグレーションの形成が進んでいる。

本報告書の執筆者達はH19年度に「ラテンアメリカの畜産インテグレーション」研究会を発足させた。そこでのねらいは、次の二つの疑問に答を見つけることにあった。すなわち、第１に、どのような要因とメカニズムによって「工業化」＝インテグレーションの形成が進むのか、第２に、形成の要因とメカニズムに地域的な特徴はあるのか、これら２点である。養鶏に焦点を当てた理由は、農牧畜産業の中で「工業化」＝インテグレーションの形成が最も顕著に見られるのが養鶏であるためである。養鶏を事例に上記の点を明らかにすることで、ラテンアメリカの農牧畜業の今後の変化の方向性を、より確かに展望できると考えたのである。検討の対象とした国は、メキシコ、ペルー、チリの３カ国である。インテグレーションの進展の度合いは、チリ、メキシコ、ペルーの順で並ぶ。このように異なった進展度の３カ国を比較検討することで、事例の相対化が可能となり、インテグレーションの要因とメカニズムについてのより深い理解が可能になると考えた。

２年研究会の１年目にあたる今年度は、インテグレーションの理論の整理と養鶏業に関する統計資料の収集と分析により、検討国の養鶏インテグレーションの基本的な特徴を把握し、今後の研究の焦点と分析視角を定める作業を行った。本調査研究報告書はその成果の一部である。

2008年3月　編者

目　　次

はじめに　p.　i

第 1 章　養鶏インテグレーションの基礎知識　p.　1
星野妙子　　清水達也　　北野浩一

第 2 章　メキシコの養鶏インテグレーション　p.　45
星野妙子

第 3 章　ペルーの養鶏インテグレーション　p.　81
清水達也

第 4 章　チリの養鶏インテグレーション　p. 103
北野浩一

執筆者一覧（執筆章順）

星野妙子　　地域研究センター上席主任研究員（主査）
清水達也　　地域研究センターラテンアメリカ研究グループ副主任研究員
北野浩一　　地域研究センターラテンアメリカ研究グループ副主任研究員